問 若者の居場所をどう育てる

答 担い手とともに、取り組みを継続



新政とうかい
松江（まつえ） 秀明（ひであき） 議員

問 中高生の居場所づくり実証事業について、どのような指標で成果や改善点を把握し、今後の施策へ生かしていくのか。

答 利用者数や利用頻度、滞在時間に加え、満足度や再利用意向、実際の過ごし方などさまざまな視点から把握し、今後策定する拠点・居場所の整備方針へ反映していく。

問 居場所づくりを持続的な取り組みとしていくために、地域の大人や支援者の関わりと、実証事業の今後の継続をどう考えていくのか。

答 地域の大人や支援者は、それぞれの立場で、こども・わかものとともに居場所や活動を支える存在になっていくことが望ましいと考える。実際に、ユースワーカー養成講座の受講者が実証スタッフとして活動する動きも出ている。今後、担い手育成や運営方法などのソフト面も整備方針に位置付けるとともに、実証ではすでに中高生の居場所として認知されてきていることから、必要な改善を加えながら継続実施を検討している。



ふらっと寄れるみんなの居場所
（中高生の居場所づくり実証事業）

問 通院の利便性改善策は

答 公共交通と福祉政策両面で支援



新政とうかい
三上（みかみ） 修（おさむ） 議員

問 本村の医療機関は、東海駅を中心として、半径1キロメートル以内に集中している。医療機関の利用者は、デマンドタクシーを頼みとする交通弱者が多く、通院の利便性改善は喫緊の課題。マイクロバス等を使用し、各医療機関と村内の要所を連絡すべきではないか。

答 交通弱者の方々の多くがドア・ツー・ドアを求めている。公共交通政策と福祉支援策の両面から移動を支援していく。「外出支援タクシー」や、社会福祉協議会の「移送サービス」の周知や利便性の向上に努める。

問 AI技術を利用した配車により利用者が急激に増加し、交通弱者に負担が及んでいないか。2部門の交通事業を1部門に統合して、デマンドタクシーを増強すべきではないか。

答 通院などの移動支援を行う場合、既存のデマンドタクシーとは切り分け、目的に応じた運行方法を構築することが望ましい。関係部門で利用状況や課題を共有しながら連携を図り、移動支援サービスの向上に努める。



ひたちなか市の地域公共交通で
運行されている９人乗りの車両